ハイパフォーマンススポーツ・カンファレンス2024

High Performance Sport Conference 2024



Performance Optimization in Paris

～コンディションの最適化とパフォーマンスの最大化～

HPSC JAPAN HIGH PERFORMANCE SPORT CENTER

会場開催 2024.12.11 WED ～12.12 THU

会　場 ハイパフォーマンススポーツセンター（HPSC）
味の素ナショナルトレーニングセンター（NTC）・ウエスト1階大研修室

JAPAN SPORT COUNCIL
日本スポーツ振興センター

ご挨拶



ハイパフォーマンススポーツセンター長
国立スポーツ科学センター所長
久木留 毅

この度、「ハイパフォーマンススポーツ・カンファレンス 2024」を「Performance Optimization in Paris ～コンディションの最適化とパフォーマンスの最大化～」というテーマで開催する運びとなりました。

今回のカンファレンスでは、ハイパフォーマンススポーツセンター（HPSC）が推進する支援の形である「トータルコンディショニング」の視点から、「コンディションの最適化」と「パフォーマンスの最大化」について皆様と一緒に探求していきます。

各セッションでは、女性アスリートやスポーツテクノロジー、HPSC における国立スポーツ科学センター（JISS）の特長を活かした支援である総合型サポートや領域横断型（Inter-disciplinary）の包括的支援、アスリート育成パスウェイに関して、パリ大会を経て得られた知見を中心に皆様と共有します。さらに海外からゲストリサーチャーを招へいし、これからの HPSC における分野融合型（Inter-disciplinary）トータルコンディショニング支援の実効化に向けても検討します。

私達は引き続きハイパフォーマンススポーツにおける課題の解決に向けて、アスリートやコーチ、そして競技団体や統括団体の皆様をスポーツ医・科学、情報面から支えるためにも、多くの関係者と日々のコミュニケーションを大切にしながらその役割を果たしてまいります。また、HPSC では、東京 2020 大会以降、『ハイパフォーマンスからライフパフォーマンスへ』という考え方に基づき、ハイパフォーマンス領域で得た知見をライフパフォーマンス領域に展開していく試みを実施しているところです。本カンファレンスが、その一助となれば幸甚です。常に半歩先を見据えた先駆的な取り組みを実施していきます。皆様のご参加に心から感謝申し上げます。

最後に、本カンファレスを実施するにあたり、ご協賛、ご協力いただいた方々や企業・団体様へ御礼申し上げます。

HPSC では、10 年先を見据え、HPSC/JISS スタッフ全員でディスカッションを重ね、JISS でしかできない支援と研究を持続的に推進するプランとして、「JISSプラン 2034」を策定し、この度、HPSC ウェブサイトに公開しました。HPSC にとって、ハイパフォーマンス領域で得た知見を社会へ還元していくことは使命であり、存在意義、いわゆるパーパスでもあります。そのパーパスを常に意識し、HPSC が掲げる「ハイパフォーマンスからライフパフォーマンスへ」を具現化し広く社会への還元に取り組み、2034 年までに世界最高水準のスポーツ医・科学研究所となることをビジョンとしております。このプランを軸に、引き続き HPSC が蓄積してきたナレッジや新しい知見・技術を、科学的根拠に基づいた支援や更なる研究の推進につなげるために、ハイパフォーマンススポーツ関係者に対して、HPSC だからこそ実現できる情報発信をしていきます。

パーパス（存在意義）／ JISSプラン 2034

パーパス（存在意義）

～ハイパフォーマンスからライフパフォーマンスへ～

HPSC は、ハイパフォーマンス領域で得た知見を社会へ還元していくことは使命であり、存在意義、いわゆるパーパスでもあります。そのパーパスを常に意識し、HPSC が掲げる「ハイパフォーマンスからライフパフォーマンスへ」を具現化し広く社会への還元に取り組みます。



JISSプラン 2034

10 年先を見据え、HPSC ／ JISS スタッフ全員でディスカッションを重ね、JISS でしかできない支援と研究を持続的に推進するプランとして、「JISSプラン 2034」を策定しました。

▶ https://www.jpnsport.go.jp/hpsc/Portals/0/resources/hpsc/Pamphlet/JISSPLAN_2034.pdf



Together,
we move
forward.

わたしたち JTB は
スポーツの感動のそばに
いつも寄り添い、
ともに挑戦し続けます

詳しくは WEB へ
JTB スポーツ 検索

株式会社 JTB

セッションA

12月11日(水)
13:10-14:20

パリオリンピック・パラリンピックへ向けた総合型サポート

JISSでは2022年度より、競技力向上のために人的、物的資源を集中して分野横断的に実施する「総合型サポート」を開始し、7つの競技を対象に実施しています。このうち夏季競技のパリ大会までの活動を多角的に振り返り、今後のJISSの医・科学サポートのあり方を議論します。



窪　康之
HPSC/JISS スポーツ科学研究部門 副部門長/副主任研究員
JISSスポーツ医・科学支援事業とスポーツ庁委託事業ハイパフォーマンス・サポート事業の統括マネージャー。



横澤　俊治
HPSC/JISS スポーツ科学研究部門 副部門長/副主任研究員
バイオメカニクスグループのとりまとめ、スピードスケートやトランポリン競技の科学的支援、採点競技に関する研究に従事。



松林　武生
HPSC/JISS スポーツ科学研究部門 副主任研究員
フィットネス評価グループのリーダーとして、フィットネスチェックの運営、フィットネスデータの活用に関する研究に従事。

セッションB

12月11日(水)
14:40-15:50

Female Athletes Research & Support Team (FARST) の新たな取り組み

～女性アスリート研究・支援の現場から～

女性アスリートが最大のパフォーマンスを発揮するためには、彼女たちが健康にハイパフォーマンススポーツを継続するための環境が整うことが重要です。ここに近づくために前進するFARSTの取り組みから、女性アスリートのトータルコンディショニングを考えます。



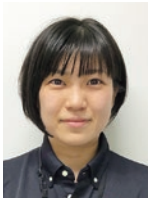
白井　克佳
HPSC/連携・協働推進部長、JISSスポーツ科学研究部門 副主任研究員
専門はコンディショニング、スポーツ政策など。2001年よりJISSスポーツ情報研究部研究員、情報・国際部、開発事業推進部、ハイパフォーマンス戦略部などを経て、2024年より現職。



能瀬　さやか
HPSC/JISS スポーツ医学研究部門 スポーツクリニック契約研究員
専門は生殖内分泌、女性医学、女性スポーツ医学。医学博士。日本オリンピック委員会アントラージュ専門部会部会員、日本パラリンピック委員会女性スポーツ委員会委員長、女性アスリート健康支援委員会理事など。現在、HPSC女性アスリート研究・支援プロジェクトに携わる。



柏木　由美子
HPSC/JISS スポーツ医学研究部門 スポーツクリニック看護師
2014年よりJISS女性アスリート支援事業に携わる。2024年9月よりFARST専任看護師。女性アスリートトータルサポートにおける選手の診療や相談対応、妊娠期産後選手の医学サポートなどに従事している。



添島　予理
HPSC女性アスリート研究・支援プロジェクト トレーニング指導員
2024年11月までJISSスポーツ医学研究部門トレーナーとして勤務し、2024年パリパラ大会にも帯同。2020年から女性アスリート研究・支援プロジェクトに携わる。トレーニング指導を通して選手の妊娠期から産後の競技復帰までをサポートしている。



三宅　宏実
いちご株式会社
元ウエイトリフティング選手。2004年アテネ大会から5大会連続でオリンピックに出場。ロンドン大会・リオデジャネイロ大会では、2大会連続でメダルを獲得し、2021年東京大会を最後に引退。現在は所属先のいちご株式会社でコーチに従事。

セッションC

12月11日(水)
16:10-17:20

パフォーマンス最大化のためのスポーツテクノロジー

近年、スポーツにおけるテクノロジーの重要性が急速に増しています。パリ五輪でもテクノロジーが選手を支えました。本セッションでは、競技スポーツのテクノロジー実装と活用に焦点を当て、3名の専門家が映像解析やゲーム分析、シューズ開発の最新知見を共有します。スポーツ科学とテクノロジーの融合がもたらすパフォーマンス最大化の可能性を探ります。

※本セッションは、スポーツ庁委託事業「先端技術を活用したHPSC基盤強化事業」の一環として実施します。

尾崎　宏樹



HPSC/JISS スポーツ科学研究部門
副主任研究員

専門はスポーツバイオメカニクス。シンガポールスポーツ研究所での勤務を経て17年より現職。卓球、バレーボール、バドミントン、パラスポーツ、スノーボードなど様々な競技のサポートをマネジメント。

相原　伸平



HPSC/JISS スポーツ科学研究部門
研究員

専門はスポーツ工学。（株）日立製作所を経て、2016年より現職。競技スポーツを対象に、映像解析、機械学習等を用いたITシステムの研究・開発に従事。また競技力向上のための映像・情報サポートを推進。

山田　耕司



公益財団法人日本卓球協会
ハイパフォーマンスアシスタントディレクター、スポーツ医・科学委員会委員

静岡大学大学院理工学研究科修士課程修了。2003年から卓球日本代表チームの映像・分析サポートに携わり、17年から味の素NTCにて勤務。パリオリンピックではゲーム分析によって代表チームを支えた。

仲谷　政剛



株式会社アシックス スポーツ工学研究所
プロダクト機能研究部
動作機能研究チーム マネジャー、主席研究員

動作分析等に基づく製品（シューズ、アパレル）の機能性向上に関する研究に従事。

セッションD

12月12日(木)
9:40-10:50

アスリート育成・強化戦略の最適化

アスリートは、いかにして国際舞台で活躍するパフォーマンスレベルに到達したのか、フェンシング競技を事例に振り返ります。パリ大会に向けた中長期の育成・強化戦略や、その土台となる約20年間で構築された地域タレント発掘・育成事業とのつながりや次世代アスリートを育成するための取り組みをアスリート育成パスウェイの視点から紹介します。

山下　修平



HPSC/ハイパフォーマンス戦略部開発課長
博士（スポーツウエルネス学）

各地の地域タレント発掘事業委員などを務め、現在はアスリート育成パスウェイの構築支援を通じて、国際競技力向上の基盤強化に携わっている。

青木　雄介



公益社団法人日本フェンシング協会
ハイパフォーマンスディレクター、強化本部長

日本代表（シニア）コーチ、国際フェンシング連盟コーチ委員などを歴任。2000年以降、地域の有望なアスリートを中央拠点で育成・強化する仕組みづくりにも携わっている。

野元　伸一郎



福岡県立玄界高等学校
フェンシング部監督

福岡県タレント発掘事業の能力開発・育成プログラムに長年にわたり携わっている。パリ大会女子サーブル団体で銅メダルを獲得した福島選手、髙嶋選手の指導者。

アワード
12月12日(木)
11:00-11:40

HPSC支援／研究アワード2023受賞講演

HPSCではトップアスリートの国際競技力向上を目的とした支援と研究（ハイパフォーマンススポーツ研究）を行っています。本セッションは、そうした支援の中で競技力の向上に顕著に貢献したと評価された支援活動を対象とした「HPSC支援アワード」、年間で最も多く論文を執筆した研究員・グループを表彰する「HPSC研究アワード」の2023年度受賞者による講演です。

HPSC支援アワード



山辺　芳
HPSC/JISS スポーツ科学研究部門 副主任研究員
風洞実験施設における選手のトレーニング環境構築や動作分析システムなどの開発、スキージャンプ競技を対象とした調査等の研究に従事。

HPSC研究アワード



木村　新
法政大学スポーツ健康学部 専任講師
スポーツパフォーマンス向上や機能改善を目指した効果的なトレーニング方法の開発、運動技能の理解と獲得を目指した理論的・実践的研究に従事。

セッションE
12月12日(木)
13:40-14:50

パラリンピック柔道選手のトータルコンディショニングサポート

～ACL再建術後からパリ大会銀メダル獲得までの2年間～

パリ2024パラリンピック競技大会において銀メダルを獲得した半谷静香選手（柔道）の、手術後のリハビリテーションから競技復帰、そしてパラリンピック出場に至るまでの約2年間のトータルコンディショニングサポートにおける成果と今後の課題について、選手本人と各分野の担当スタッフが登壇しディスカッションします。



笹代　純平
HPSC/JISS スポーツ医学研究部門 専門職/研究員
日本パラリンピック委員会強化本部 トレーナー部会員
主にパラアスリートに対するリハビリテーションや研究に従事。



大石　益代
HPSC/JISS スポーツ医学研究部門 主任専門職/トレーニング指導員
パラリンピック競技担当トレーニング指導員としてパラリンピアンのサポートに従事。障がい者スポーツ指導員の資格を持つ。



亀井　明子
HPSC/JISS スポーツ医学研究部門 副主任研究員
複数のオリンピック・パラリンピック大会で栄養サポートを担当し、日本のトップアスリートの食生活に関する研究に従事。



半谷　静香
トヨタループス株式会社
2012年のロンドン大会でパラリンピックに初出場し、4度目の出場となったパリ大会で初のメダルとなる銀メダルを獲得。

セッションF
12月12日(木)
15:10-16:40

将来を見据えたトータルコンディショニング支援のあり方を考えよう

「10年先のトータルコンディショニング支援とは？」
これまでのスポーツ医・科学、情報等の支援基盤を踏まえ、「ピリオダイゼーション」「トレーニング負荷」「リカバリー」「パフォーマンスヘルス」の分野を強化し、これからのHPSCにおける分野融合（Inter-disciplinary）型トータルコンディショニング支援の実効化に向けて海外有識者と検討します。

※本セッションは、スポーツ庁委託事業「先端技術を活用したHPSC基盤強化事業」の一環として実施します。



衣笠　泰介

HPSC/JISS スポーツ科学研究部門 主任研究員

オーストラリア、シンガポール、日本で20年にわたりコンディショニングやアスリート育成パスウェイ等の研究や支援に従事。現在、当センター基盤強化事業のチームリーダーを務める。



イニゴ・ムジカ

バスク大学 准教授

スポーツ生理学者、トライアスロン及び競泳のコーチ。現在、IOCディプロマ（ストレングス＆コンディショニング）ディレクター、International Journal of Sports Physiology and Performance副編集長、当センター基盤強化事業のアドバイザーも務める。



ショーナ・ハーソン

オーストラリアカトリック大学 教授

Australian Institute of Sport（AIS）で15年以上にわたりリカバリー生理学者としてオリンピック3大会で選手団を率いた。現在、リカバリー、睡眠、疲労に関する研究を行い、多くの国内外のプロチーム等のコンサルタントも務める。



デイビッド・マーティン

オーストラリアカトリック大学 名誉教授

Australian Institute of Sport（AIS）で25年以上にわたり自転車やスキー等競技のスポーツ生理学の第一人者。現在、大学教授でありながら、米国スタートアップ企業のチーフサイエンティストも務める。



ポール・ウィルマン

ブリュッセル自由大学 教授

スポーツ心理学者としてヨーロッパスポーツ心理学会会長を8年間務め、2024年パリ大会チームベルギーのウェルフェアオフィサーを担当。現在、トップアスリート等のコンサルタント、当センター基盤強化事業のアドバイザーも務める。

協賛企業様

トップパートナー

FUJITSU

JTB
感動のそばに、いつも。

パートナー

InBody
See what you're made of

Senoh

aim SERVICES

SHIDAX
未来の子供たちのために

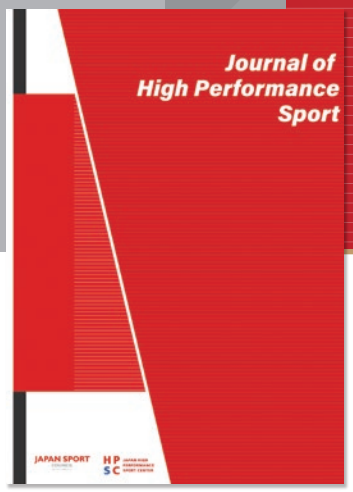
株式会社協栄

Otsuka

NCA NIPPON CONDITIONING ASSOCIATION
（一社）日本コンディショニング協会

Panasonic CONNECT

Journal of High Performance Sport (JHPS)



Journal of High Performance Sport(JHPS)は、ハイパフォーマンススポーツにおける競技力向上への医・科学的貢献を目指す研究雑誌です。その内容には、強化現場に直結する応用的・実践的なものから、将来活用の見込まれる研究までが含まれています。さらに、トップアスリートのような特異的な対象者に焦点を当てた実践研究やその特性を探究する研究、医・科学サポートに関する事例・症例の報告や研究資料も扱っています。

トップアスリートの競技力向上に関わる研究

JHPSは、「研究成果が国際競技大会で活躍するトップアスリートの競技力向上に貢献できるか」という点に関して、特に重視した学術誌であるということが他の学術誌との大きな違いとなっています。JHPSへの投稿は、トップアスリートがトレーニングを行うナショナルトレーニングセンターと支援・研究を一体となって行うJISSを有するHPSCだからこそ蓄積される知見もあるため、HPSCに所属している方を中心に、中央競技団体（NF）の医・科学スタッフである各大学の先生やその大学院生等にも多く投稿をいただいています。また、過去にJISSに所属していた方で大学に就職した方、NFの医・科学スタッフになった方などにもJHPSに投稿していただいています。

豊富な収録論文数

現在JHPSには、2023年12月末時点で91本の論文が収録されており、JHPSの前身であるJAPANESE JOURNAL of ELITE SPORTS SUPPORTやSports Science in Elite Athlete Supportを含めると135本の論文を収録しています。現在のJHPSという研究雑誌となってからは、総説、原著論文、報告・資料の3つの論文種類 から成り立つ通常号とHPSCが事業の一環として取り組んでいることや、ハイパフォーマンススポーツ分野におけるトレンド・トピックの紹介などを行う特集号という形で１年に２冊の発刊を行っています。

2022年は東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に関するサポート特集というテーマで、JSC村外サポート拠点、暑熱対策プロジェクト、自国開催大会の心理対策プロジェクトについて、特集号を発刊しております。また、JHPSの目的の一つでもある研究成果を更なるトップアスリートの競技力向上に幅広く活用してもらうため、各NF、全国にある体育・スポーツ系大学、地域の医・科学スポーツセンター、各都道府県のスポーツ協会等に冊子を配布しています。加えて、HPSCのウェブサイトにおいても公開することによって広く知見を還元していく取り組みを行っています。



通常盤 総説、原著論文、報告・資料の3つの論文種類。

特集号 ハイパフォーマンススポーツ分野におけるトレンド、トピックの紹介。

これからのJHPS

今後、JHPSがハイパフォーマンススポーツにおける競技力向上への医・科学的貢献を更に進めていくためには多くの研究の投稿がされること、また、多くの方に目にしてもらうことによってJHPSの価値を高めていくことが重要だと考えております。そのために、HPSCではJISSの研究員を中心としたJHPS編集委員会において、定期的に議論を行い、HPSCだからこそできる研究雑誌を目指しています。

JHPSをはじめ、HPSCが編集・監修している刊行物はこちらからご覧ください。

https://www.jpnsport.go.jp/hpsc/study/tabid/1766/Default.aspx